



韓国で行われたアニメーションフェスティバルでのワンショット

を担っている。今回のグラハムさんの来道はまさにそれを裏付けるものであった。そんなグラハムさんの将来の目標は、日本のアニメーターやプロデューサーと共にアニメーションフィルムを制作することで、新たな作品とともに来日したいという希望がある。次に会える時は、グラハムさんがさらなる大きな舞台上で活躍されている姿が目に見えるように。これからも、北の大地での技術研修を通じて彼のような人材が輩出され、北海道と南米を結ぶ技術協力と友好の橋が幾重にも架けられることを心から願っている。

北方圏センター設立30周年記念事業

国際協力のつどい

「北澤 豪～世界の現場を語る」

—JICAオフィシャルサポーター北澤 豪さんのトークショー等を開催—

北方圏センターでは、9月21日、道北の地旭川市において「国際協力のつどい」と題し、JICAオフィシャルサポーターで元サッカー日本代表の北澤 豪さんのトークショーなどを開催した。

今回のイベントは北方圏センター設立30周年記念事業の一環として、帯広市、札幌市、函館市において実施された各事業に続く道内4か所目の開催となるものである。

当日は第一部で「北澤 豪～世界の現場を語る」と題したトークショーを開催した。北澤さんは、これまで見てきた開発途上国の生活や子供たちの現状、そして子供たちのサッカーにける情熱などについて熱く語った。北澤さんは「リーグ創



JICAオフィシャルサポーターの北澤 豪さん



映像を交えたトークショー

設期の立役者としても有名であるが、引退後はJICAオフィシャルサポーターとしてザンビア、シリア、パラグアイ、パレスチナなどを訪問し、サッカー教室や親善試合などを開催、国際協力活動に従事するとともに、自らもボランティア団体「THE FOOT」の代表としてサッカーを通じた慈善活動を積極的に展開している。

トークショーでは、北澤さんが訪れた各地の写真を見ながら国際協力という難しいテーマをサッカーや現地の話題などを織り交ぜながら非常にわかりやすく説明し、当日参加した180人の聴衆はうなずきながら熱心に聞き入っていた。またトーク終了後も気軽にサインに応じるなどサービス精神旺盛な北澤さんに、集まった多くのサッカー少年たちも大喜びだった。

第二部はワークショップとして「世界がもし100人の村だったら」を開催。ファシリテーターとして北海道教育大学附属旭川中学校の松田剛史教諭を招いた。参加者たちはファシリテーターの指導のもと、ゲームなどを通じて世界の現状を疑似体験した。

参加した多くのサッカー少年たちは、最初は恥ずかしさからぎこちない感じだったが、徐々に雰囲気にも慣れ、最後は自ら発言するなど積極的にワークショップを楽しんでいた。今回のワークショップを通じて、第一部のトークショーで触れられた話題に対する理解が一層深まったようであり、次の世代を担う少年達の国際理解の促進が図られた。

(国際協力部)



サッカー少年たちの参加によるワークショップ